

1 1月全校集会（感謝の心）

1 1月になり朝夕大変秋らしくなりました。新型コロナの緊急事態宣言が全面解除されて約 1 ヶ月がたちました。新規感染者数は全国的に少なくなり落ち着いています。が、引続き油断せず、昼食時での黙食、帰宅後のうがい等感染防止対策の徹底をお願いします。

さて、今日はある本を紹介します。中井 俊巳 著「感謝の習慣がいい人生をつくる」という本です。

この本には、感謝には、三段階ある。第一は、人から何かをしてもらって感謝する。（これは、誰もが子どもの頃からおしえられてきたこと）。第二は、普段、当たり前だと思っていることに感謝する。（これは学校などでは教えてもらえないこと）。第三は、辛く苦しいときにも、感謝する。（なぜ苦しいときにも感謝しなくてはならないのか。これは理解するのが難しい）。私は、第三どころか第二も出来ていませんでした。人間は、試練、困難、苦難からこそ学びがあり、また、苦勞の経験があったからこそ、今の幸せに有り難みを感じて感謝出来るということが書かれています。そんなこの本の中に Story として書かれていることを紹介します。

「乞食の天使」

いつもよく働く靴屋のもとへ、あるとき天使が現れました。乞食の姿になって……。

靴屋は乞食の姿を見ると、うんざりしたように言いました。

「お前が何をしに来たかわかるさ。しかしね、ワシは朝から晩まで働いているのに、家族を養っていく金にも困っている身分だ。ワシは何も持っていないよ。ワシの持っているものは二束三文のガラクタばかりだ」

そして、嘆くように、こうつぶやくのでした。

「みんなそうだ、こんなワシに何かをくれ、くれと言う。そして、いままで、ワシに何かをくれた人など、いやしない……」

乞食は、その言葉を聞くと答えました。

「じゃあ、私があなたに何かをあげましょう。お金に困っているのならお金をあげましょうか。いくらほしいのですか。教えてください」

靴屋は、面白いジョークだと思い、笑って答えました。

「ああ、そうだね。じゃ、100 万円くれるかい」

「そうですか、では、100 万円差し上げましょう。ただし、条件が一つあります。100 万円の代わりにあなたの足を私にください」

「何!? 冗談じゃない! この足がなければ、立つことも歩くこともできやしないんだ。やなこった、たったの 100 万円で足を売れるもんか」

乞食はそれを聞くと言いました。

「わかりました。では、1000 万円あげます。ただし、条件が一つあります。1000 万円の代わりに、あなたの腕を私にください」

「1000 万円……!? この右腕がなければ、仕事もできなくなるし、可愛い子どもたちの頭もなでてやれなくなる。つまらんことを言うな。1000 万円で、この腕が売れるか!」

乞食は、また口を開きました。

「そうですか、じゃあ、一億円あげましょう。その代わりに、あなたの眼をください」
「一億円・・・!? この眼がなければ、この世界の素晴らしい景色も、女房や子どもたちの顔も見ることができなくなる。ダメだ、ダメだ、一億円でこの目が売れるか！」

すると、乞食は靴屋をじっと見つめて言いました。

「そうですか。あなたはさっき、何も持っていないと言っていましたけれど、本当は、お金に代えられない価値のあるものをいくつも持っているんですね。しかも、それらは全部もらったものでしょう・・・」

靴屋は何も答えることができず、しばらく目を閉じ、考え込みました。

そして、深くうなずくと、心にあたたかな風が吹いたように感じました。

乞食の姿は、どこにもありませんでした。

私たちも、多くのお金に代えられない価値のあるものを持っています。

足や腕や眼など、私たちの体はもちろん、命、心、知性など、かけがえのない素晴らしいものを持っています。

いま、持っているものも、身に付けているものも、すべてはもらったものです。毎日使っているスマホ、学校の机、自転車などの物も同じです。それらに感謝しながら生きるとき、心はより豊かになっていきます。

今月は、2年生は10日から沖縄への修学旅行、19日は芸術鑑賞会、27日は家高祭があります。引続き感染予防と共に体調管理もしっかりして準備しましょう。